

No.	団体名	活動対象 地域	事業概要	助成額 (円)
1	特定非営利活動法人 大雪山自然学校	北海道	<p>「仕事が減った人と社会課題のマッチング～若者・子育て家庭・観光従事者を支える仕組」</p> <p>当事業では、コロナ禍において社会的に孤立しがちな子育て家庭や非正規雇用者が、①子供が安心して過ごせる居場所を確保するとともに、②非正規雇用者をそのスタッフとしてマッチングを行う。特にインフォーマルな子供の居場所づくりに力を注ぎ、子供も保護者もスタッフも安心して活動できるよう研修を充実させる。</p> <p>これにより、子育て家庭にとっては多様な交流の機会が増え、非正規雇用者は子供や地域とつながりのある活動で収入を得ることが期待される。なお、非正規雇用者の仕事は、保育現場だけではなく、親子が訪問する森や遊歩道整備等、観光地における環境整備も想定しており、個人の特性に合った現場と研修機会を提供する。</p>	5000000
2	特定非営利活動法人 北海道エコビレッジ 推進プロジェクト	北海道	<p>「農業の担い手育成と持続可能な地域づくり」</p> <p>①余市・仁木町内における農業人材不足を解消するために、都市部からの援農やパート労働者をマッチングする。就業に当たっては双方の要望を調整したり、地域住民との交流や悩み相談の他、地方の課題や持続可能な地域づくりを学ぶ交流研修の機会や移住のサポートを提供する。</p> <p>②短期・中期の援農ボランティアやパート労働者、農業研修生らの良好な住環境を確保するために、既存のゲストハウスや学生下宿、空き家などの住宅情報を調査・整理する。</p> <p>③農山村のインフラ設備のない環境でもオフグリッドで居住性の高いタイニーハウス（狭小住宅）を建設し、農業だけでなくツーリズム等への展開を検討する。”</p>	5000000

3	特定非営利活動法人 いぶり自然学校	北海道	<p>「北海道森のようちえんリスタート事業～親子の心の安定と、持続的運営を目指して」 もう一度幼児と保護者が屋外で遊び、森のようちえんの意義を共有し、コロナ禍によって失われつつある幼児と保護者の心身の健康を取り戻すための場と機会を提供する。具体的には、 1. 全道で森のようちえんを実施している団体に協力してもらい、それぞれの団体にあった森のようちえんに参加できる場と機会を提供してもらおう。2. そこで、参加しなくなりつつある幼児や保護者にもう一度森のようちえんの意義を確認してもらい、今後の参加や参画を促す。 3. 指導者や運営者、ボランティアとコロナ禍においても活動を実施するための方法を考え、その体制を確立する。</p>	5000000
4	特定非営利活動法人 みなと計画	北海道	<p>「若年アーティストの創作活動サポート事業」 基盤(創作環境・精神・生活)が弱く、コロナの影響で孤立し、創作意欲の減退が起きている若年アーティストが今後も創作活動を続けられるようサポートをする。 &gt;活動内容 ①孤立する若年アーティストの相談窓口を設け、ニーズに応じたサポートを行う ②若年アーティストの現状を把握する意見交換の場を設け、ニーズを把握する ③福祉事業者と連携したアートに関わる仕事を創出する ④若年アーティストと地域の店舗等をつなぎ、自身の作品を通じて収入につなげられる仕組みを作る &gt;社会課題への貢献 自身の創作活動のみではなく、今回のような創作支援活動の担い手としてや、地域課題の解決にアートを取り入れる活動を行えるようになる。</p>	5000000

5	一般社団法人北海道ブックシェアリング	北海道	<p>「親子の居場所・学び場としての絵本館の運営」</p> <p>本会が運営する「北海道学校図書館づくりサポートセンター」（江別市、蔵書約3000冊）を、月に4回（毎月第1、第3土日）、「親子のための絵本館」として無料開放し、居場所として利用してもらうほか、それぞれの分野の専門家による絵本セミナー、手づくりワークショップ、絵本セラピー、学びの教室などの無料講座を開き、くつろぎと育みと学びの機会を創出する。利用は予約制で、ソーシャルディスタンスの確保と、プライバシーの観点から、一日最大12人までとする。また、社会福祉や大学連携、若者の交流、児童クラブなどの機関を持つ大麻銀座商店街というロケーションと連携を活かし、暮らしのバックアップにつなげていく。</p>	3400000
6	株式会社PLOW	北海道	<p>「ゲストハウスを活用した生活困窮者支援事業～交流機能を用いた社会的孤立へのアプローチ」</p> <p>本事業は、感染症災害によるホームレスの増加に対応するための居住確保を進めると同時に、ゲストハウスの交流機能を活かして、社会的孤立の問題に対する新しいアプローチを実施・普及する。さらには、ホームレス状態の生活困窮者が多く存在する札幌市とは異なり、一棟借上等による大型シェルター・支援付き住宅の整備が難しい地域において、ゲストハウスを活用したホームレス状態にある生活困窮者支援のノウハウ移転を試みる。今事業期間においては、札幌市のとなりに位置する江別市で、ゲストハウス「ゲenius・ロキが旅をした」を運営する合同会社ロキに対し技術指導をすることで、当団体の取り組みの横展開を図ろうとするものである。</p>	5000000

7	特定非営利活動くるくるネット	北海道	<p>「室蘭初。子どもと大人の居場所！常設型」</p> <p>1. 室蘭市に談話室2か所（子ども用・大人用）と相談室を備えた常設型居場所を市内で初めて設置する。午後2時～8時の6時間、学習サポーター2名・生活支援サポーター1名・相談員1名を常駐。定員は20名。（大人10名・子ども10名）平日週4回以上。土曜日2回以上オープン。学習サポーターは新型コロナの影響で収入の減った、大学生・専門学生を積極的に採用。</p> <p>スペースは新型コロナウイルス対策として1人あたり3㎡を確保。子どもは学習の補修・PC学習・レクレーション等。大人は、PC訓練・コミュニケーション訓練等</p> <p>2. 活動の小冊子の配布。500部作製。</p> <p>3. 保護者・求職者向けにICTを使用した相談窓口を設置</p>	3180000
---	----------------	-----	---	---------